

# 昔おきなわ風景探索

沖縄県公文書館所蔵の写真と空中写真

1945年6月

Q. どこででしょうか?



地図を表示

(写真番号: 73-16-4 をカラー処理)

A. 那覇市泊港付近

**き**れいな枝ぶりをした琉球松とその下の草木、集落と海、戦中とは思えないのどかな風景。撮影者も足を止めて風景を堪能していたことが想像されます。手前は、泊の街で、家屋がだいぶ残っています。その後を安里川が横切り、それにかかる橋は泊高橋です。後方の干潟は埋め立て前の前島付近です。前島の海に面したところには、三階建ての開洋会館\*が目立ちます。さらにその右側にはミートウジー(夫婦岩／夫婦瀬) \*\*がみられます。



1945年2月28日

(資料コード: KS00000073 [ON24146 005-2])

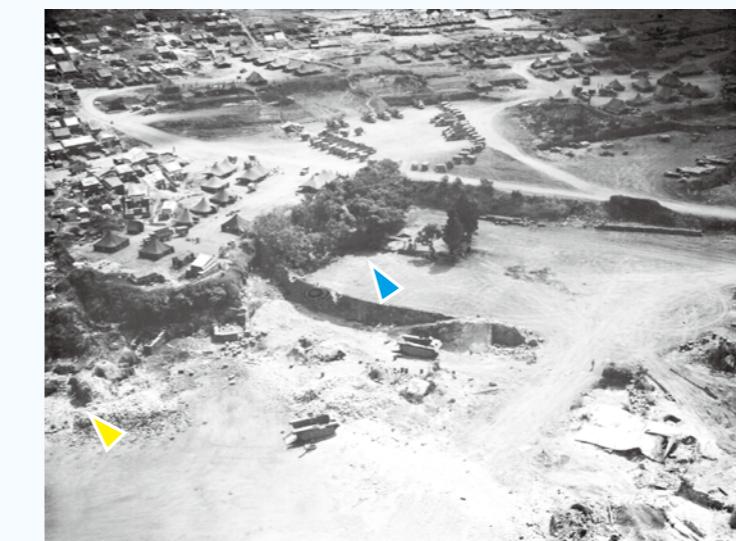
表紙で示された場所を米軍上陸前の那覇市泊港付近の空中写真（1945年2月）からみてみます。表紙の写真は赤矢印の方向から撮影したものと思われます。▲は泊高橋、▲天久宮、▲フェーヤチガマ\*（石灰窯:本リーフレットNo.1参照）、▲泊外人墓地、▲泊国民学校です。▼は兼久の塩田\*、▼前島の塩田\*、▼ミートウジー（夫婦岩／夫婦瀬）、▼開洋会館になります。



写真① 資料として1枚の写真になっていますが、写真3枚をつなぎ合わせています。撮影の段階からつなぐつもりで撮っているようです。左手の建物は泊国民学校（現在の泊小学校）です。背後ではまだ煙があがっています。写真右側の▼は旧久茂地小学校近くにあった電気会社の煙突のようです。（1945年）（写真番号：73-17-4）



写真③ 前頁で示された泊外人墓地付近を空中写真からみてみます。▲は天久宮でその南に聖現寺があります。▲はフェーヤチガマ（石灰窯）があったとされており、戦後、学校の新築により移転したといわれています。▲は泊外人墓地です。墓石が点在しているのが見えます。（1945年4月18日）（写真番号：114-26-4）



写真④ ▲は天久宮、▲は石がたくさん積まれてあり、フェーヤチガマと思われます。（1945年6月27日）（写真番号：06-63-3）



写真⑤ 写真③で示した青矢印の付近から泊港向きに撮影したものと思われ、石がたくさん積まれている所はフェーヤチガマと思われます。（1945年5月）（写真番号：80-04-4）



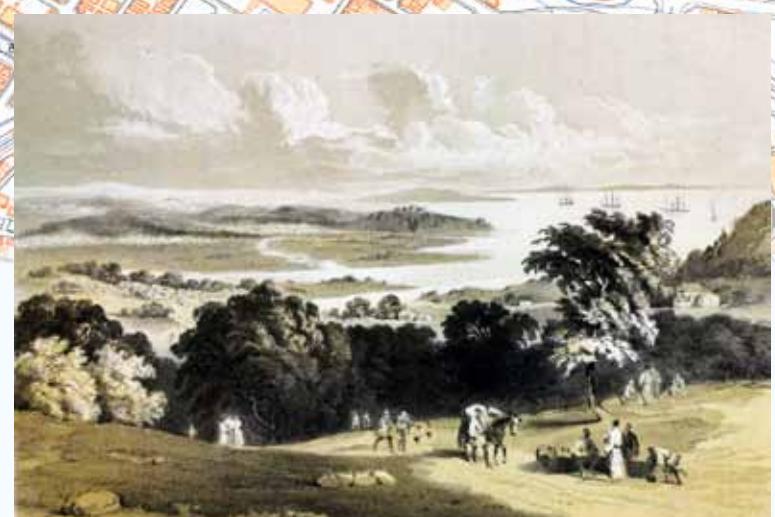
写真② これも①と同じく、1枚の写真ですが、3枚をつなぎ合わせています。▼は開洋会館、▼ミートウジー（夫婦岩／夫婦瀬）です。（1945年）（写真番号：73-17-4）【写真①と②は一つの資料となっているので写真番号は同じです。資料には1945年とありますが、おそらく5月から6月の間に撮影された写真と思われます。】



前頁の矢印の位置を現在の地図（国土地理院）に落としてみました。地図上の矢印や三角印は空中写真とほぼ同じ位置になります。また、右の図①には琉球国時代の同地域と思われる絵図を示しました。

注 \* 那覇市史 1979『那覇の歴史民俗地図』

\*\* 「角川日本地名大辞典」編纂委員会 1986『角川日本地名大辞典 47 沖縄県』



図① この絵は、ペリー提督一行が沖縄に来航したときの那覇の様子です。上之屋付近から、泊港や慶良間諸島をみた風景のように見えます。(Hawks (ed.) 1856 より) (資料コード : 0000025991)

## 昔おきなわ風景探索 No. 17

発行日：令和7年（2025）10月25日

編集執筆：当山昌直（1951年生）

発行：（公財）沖縄県文化芸術振興会 公文書管理課

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町新川148-3 沖縄県公文書館内

電話（代表）098-888-3875 FAX: 098-888-3879

沖縄県公文書館デジタルアーカイブ

アメリカ統治下にあった頃の写真や空中写真を公開しています。

